

新島襄の略歴（1）

・新島襄の三つのステージ 名前と連動している

1. 七五三太 2. ジョセフ・ニイシマ 3. 新島襄

* 「にいじま」か「にいしま」か・・・『現代語』 p.59

第1ステージ.

幼名の七五三太（しめた）の時代 1843-1864（脱国まで）21年間

・新島の誕生

1843（天保14）年誕生 旧暦では1/14 新暦では2/12

新島民治・とみの第五子、長男として江戸神田小川町の安中藩邸で誕生。
祖父、弁治は喜んで、シメタと言った？ その日が七五三を取り去る日
だったので？

父、民治は藩の祐筆職（書記）新島は侍の子。自宅で書道塾を開く。

新島は5歳から習字を。藩の仕事をしていた。仕事に苦痛を感じていた。

・青年期の新島に大きな影響を与えた旅

藩邸は4,000坪、一辺が125㎡の正方形。その中で21歳まで暮らす。

1. 安中への旅 1861（文久元）年 19歳 →

3月11日 藩主、板倉勝股の護衛で、初めて安中に向かう。

単調で、苦役のように感じていた。家出願望が出てきた？

2. 玉島への航海 1862（文久2）年 20歳 →

備中松山藩が快風丸を米国から購入し、横浜で引き渡しを受ける。

その快風丸を玉島に回送される時、その船に乗り組む。

二ヶ月間の航海で自由を満喫。大坂で牛肉も食べた。

* 快風丸・・・『現代語』 p.57

・外の世界に誘った本、密出国への刺激を与えた書物

1. 『聯邦志略』 * 図・・・『現代語』 p.50

中国に派遣されていたアメリカの宣教師E・C・ブリッジマンが
漢文で書いたもの。アメリカの地歴書、歴史、政治の仕組み
アメリカに大統領選挙があることを知り、「脳がとろけ出そう」に

なるほど驚嘆した。 ・脱国願望が強まった。

2. 和訳ロビンソン・クルーソーの漂流記

典型的な冒険物語。野望を駆り立てられ、祖父にも勧めた。
しかし、祖父からは、読まないようにと注意されている。

3. 友人から中国語の聖書が抜粋された小冊子

当時はキリシタン禁制の中、こっそりと読んでいる。
また、津田仙らと聖書の会にも出席していた？

・密出国へのステップ

その頃の日本は鎖国の状況で開港していたのは（脱国の可能性のある港）

・横浜 ・新潟 ・神戸 ・長崎 ・函館

1. ある日、突然のチャンスがやってきた。

玉島旅行に同行した知人とバッタリ会い、近日中に「快風丸」がサハリンに行くことを聞く。千載一遇のチャンスと一週間でバタバタと準備。藩を離れる許可が首尾良くとれ、正式な許可を得て、函館に留学。脱藩では無い。新島の心の中にあっただのは、外国行き。そのワンステップとしてこの機会を活用したい。

2. 函館へ

気候にも影響され、40日間かかった

函館では、ニコライに世話になった。ニコライは勉強意欲のある新島自分の元に置いておきたかった。

海外への機会をうかがっていたところアメリカの商船ベルリン号に密出国は死罪であったが、アメリカで学びたいという知的欲求の方が上回っていた。上海から先は不明な無謀な旅だった。

後にベルリン号の船長（W・T・セイヴォリー）は新島を脱国させたことが会社に露見し、解雇されている。

3. ワイルド・ローバー号にて

写真は左は脱国時、ベルリン号の乗り込んだ時の服装。アーモスト大学で再現した。

上海からボストンへ。商船だったので一年間かかり、ボストンへ。

船長（H・S・ティラー）は新島を joe と呼んだ。joe は愛称。

第2ステージは10年間。1年は船上、米で8年間、欧で1年間

船長は船主に紹介して、頼んでくれた。命の恩人

船主のハーディーになぜアメリカに来たのかを聞かれて、新島は語ったが、通じなかった。そこで、「手紙に書いてよこしなさい。」

「Why I departed from JAPAN」（全7-3）を書いた。

「私はなぜ日本を脱国したのか」（脱国の理由書）『現代語』 p.50

それを読んで、ハーディーは、自分たちが面倒を見ようと決意した。
ハーディー家の養子のような待遇、名前も Joseph Neeshima

この変化・・・ 安中藩士から国際人 侍からクリスチャンに。

しかし、変化は船上で。

武士の命である日本刀を上海で船長に 8ドル 漢文の聖書を購入
ちょんまげを切り、区切りを付け、決意した。未練は無かった。

アメリカで本格的な学びがハーディー夫妻によって実現する。

< 新島襄の略歴（1）はハーディーと出会ったところまで。 >